

<p>学校教育目標 「生き生きした 活力のある子」</p>  <h1>学校だより</h1> <p>さいたま市立大牧小学校</p>	<p>令和2年度 6月号 No.441 令和2年6月1日 発行</p>	<h2>6月の目標</h2> <p>◎ 仲間を大切にしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりをもって助け合おう ・自分や友達のよいところを見付けよう
---	---	--

㊦ いさつや返事がしっかりできる、㊧ つしよ懸命学習に取り組む、㊨ つくしく掃除の行き届いた、㊩ がおのあふれる ㊪ お牧小学校

困難に向き合える力を

校長 間宮 和宏



長かった休校期間でしたが、ようやく学校に元気な子どもたちの声が戻り、まずは第1歩を踏み出しました。季節は少しずつギラギラとした夏の日差しを感じるようになり、紫陽花の葉が鮮やかな緑色に変化し、校長室前のペランダの緑のカーテンも着実に伸びてきています。また、野鳥が校地のまわりに巣を設け、ひなの鳴き声も聞こえてくる、生命の成長を感じる時季となりました。

さて、学校では、これまで子ども自身が安全と安心を感じながら、悲しみや不安などに向き合える力をつけていこうと努力してきました。一人ひとりが力をつけていけば、「困った子がいたら助ける」ことが自然にできることができます。学校ではそうしたことを様々な場面の中で繰り返し伝えてきました。

とはいえ、コロナ感染症拡大防止のための臨時休業は、学習の空白や運動や遊びの制限、集団活動の不足、人のかかわり合いの制限など、様々な影響が出てくることと考えられます。今回の休校措置で、新年度に入り進級したにもかかわらず、子どもたちの学校生活の拠点が閉ざされ、解除後も元どおりの学校生活にスムーズに戻ることは難しいかもしれません。子どもたちに“不安や悲しみに向き合う力”がついていれば、休校が解除された後も差別的な言動は出てこないと思います。しかし、みんなが疑心暗鬼になってしまい、被害者意識を持っている子や、劣等感や孤独感を抱えている子が多くなると、自分と違うものや世の中を困らせた新型コロナウイルスに対して恐れを抱き、排除しようという態度が現れてしまうことは予想されます。

例えば、東日本大震災の後には、『津波ごっこ』をする子どもたちがいました。今回も、『コロナごっこ』をする子どもたちが出てくるかもしれません。いじめなど、相手を傷つける言動が激しくなる場合もあります。大きな不安を自分だけでは受け止めきれずに、自身の不安を取り去るため、そうした方向へと動く子どもたちが出てくるのです。

もし、休校中に、家庭でもそういう傾向が現れてきたときには、遊びを見守り、そして、その不安を受け止め、「わからないものって、怖いよね」「自分や家族がなったら嫌だなんて思うよね」などと声をかけ、その子の感情はしっかりと受け止める。しかし、「その願いを相手を傷つける方法で表現するのは違うよね」ときちんと伝えてあげてほしいと思います。つまり、「受容はするけど、許容はしない」という姿勢を貫くことです。まず、その子の抱える不安を受け止めてから正しい知識を伝えてほしいと思います。

孔子の「論語」の中に「忠恕(ちゆうじょ)」という言葉があります。これは、他人の身の上を自分のことのように親身になって思いやるということです。私たちは、自分が経験したのと同じような悲しみや苦しみに遭遇した人に対しては優しさや思いやりの心を表しやすしいものです。その人の気持ちを自分のことのように受け止められるからです。ぜひ優しく接することはもちろん、自力で立ち上げられるように温かく見守ることのできる子どもたちに育てていきたいと思ひます。

話が戻りますが、本来、子どもたちは、学校が休みになれば、「いままでできなかったことができる」「あの実験をやってみよう」「ずっと好きな本を読んでいられる」「ずっと絵を描いていられる」と喜ぶような、生き生きとした存在のはずです。それなのに、教材が用意され、指示がなければ何もできない子どもたちが増えてしまっている現状があるとすれば、あらためて、教育って何だろうと考えなくてはならないと思ひます。もちろん、教育の機会を等しく保障することは必要です。基礎基本となっていることは確実に身につけさせなければなりません。しかし、子どもたちから「何をしたらいいかわからない」「ヒマすぎてつまらない」という言葉が聞こえてくるとしたら、私たちは果たしてこれまで、どのような状況であっても主体的に学ぶことができる子どもたちを育ててきたのかという自責の念を感じずにはいられません。

今回の新型コロナウイルスに限らず、これまでの価値観や知識だけでは乗り越えることのできない難局がこれからも繰り返してやってくるかもしれません。そのときに戸惑わないために、新しい世代に何を伝えるべきなのか、そのために何ができるのか。いま一度、深く考え直すべきときが来ているのだと思ひます。みんなが不安の中にいる今こそ、自分の力を誰かのために発揮して、苦手なことは誰かの力を借りて生きていける学校にしていきたいと思ひます。そのためにできることを、子どもの力を信じて、子どもの声に耳を傾け、子どもたちと一緒に考えて困難に打ち勝つ力を育てていきたいと思ひます。

今、この難局を乗り越えることは、子どもたちにとって本当に必要な教育や学校の役割を考えるチャンスととらえ、学校の教育目標の実現、そして「ともにのびよう あいうえ大牧小学校」を推進していきけるよう学校全体で取り組んでいこうと思ひます。

※市内のどこか一か所でも「震度5弱」以上の地震が観測された場合には、「引き渡し」を実施します。学校からの連絡を待たず、来校をお願いします。(4月30日に予定されておりました小中合同の引き渡し訓練ですが、今年度は中止といたします)